

福島の子どもたちのために世田谷の私達ができること！

ふくしまっ子リフレッシュin世田谷

2024年・冬 12月25日～12月29日 4泊5日

Part26



2025年3月で東日本大震災と福島原発事故から14年を迎えます。震災の翌年春から、福島の電気を使ってきた世田谷に暮らす私たちに出来ることはないだろうか、と区内のさまざまなグループや個人が思いつuitのが、福島の子どもたちに世田谷の公園で思いっきり外遊びをしてもらう、というプロジェクトでした。長期休みに区内に宿泊し、砧公園や羽根木プレーパークなどでの外遊びを中心にした「リフレッシュin世田谷」は、コロナ禍による中断はありましたが、この冬で26回目となります。

もう原発事故は終わった、これからは再稼働、との動きもある中、福島はまだまだ復興からは程遠く、子どもたちへの甲状腺異常の今後の影響も懸念されます。私たちに出来るのは、まず「忘れない」こと、そして「福島の実実」を知ること。区民と世田谷区の「協働事業」にご協力をいただければ幸いです。

**この活動を安定的に続けられるように
ボランティアを募集しています。**

お問い合わせ、応募は以下のメールアドレスへお願いします。ホームページには過去の活動の様子も掲載していますのでご覧ください。

【メール】 fuku.seta.tomoni@gmail.com



【ホームページ】
<https://savefukukids.jim-dofree.com/>

歌人 三原由起子さん講演会「声を束ねて」

12月28日(土) 15:00～17:00

【会場】 総合運動場会議室(体育館横)
世田谷区大蔵4丁目6-1

【登壇者】 三原由起子さん(歌人)

【参加費】 無料 【定員】 先着20名まで

【申込み】 下の2次元コードからお申し込みください

【主催】 福島の子どもたちとともに・世田谷の会
【共催】 世田谷区、世田谷区教育委員会
【協力】 社福)世田谷ボランティア協会、
社福)世田谷区社会福祉協議会



ふくしまっ子リフレッシュin世田谷の期間中、福島の方々と世田谷区民とが同じ場で、福島の現状について学習し、交流を深める試みを行ってきていますが、今回は、福島の浪江出身の歌人の三原由起子さんをお呼びし、ふるさとを詠んだ歌とふるさとへの思いを語っていただきます。ぜひご参加ください。

【三原由起子さんプロフィール】

1979年福島県双葉郡浪江町に生まれる。高校時代の1995年より作歌をはじめ。同年、第48回福島県文学賞短歌部門青少年奨励賞受賞。2013年第一歌集『ふるさとと赤』(本阿弥書店)出版。2022年第二歌集『土地に呼ばれる』(本阿弥書店)を上梓。現在、現代歌人協会会員、日本歌人クラブ参与。2011年より、夫と下北沢で詩歌文芸出版社いりの舎を営んでいる。



福島の子どもたちとともに・世田谷の会は、2012年より世田谷区内の20の市民団体がつながりスタート。世田谷区と世田谷区教育委員会等の協力を得て、外遊びが十分にできない福島の子どもたちと家族が世田谷で過ごす「ふくしまっ子リフレッシュin 世田谷」を長期休みに実施してきました。これまでに25回、延べ1,354名が参加しました。また、福島の実状を知るために講師を招いて講演会を20回開催しています。



2023年冬の リフレッシュ報告

4泊5日で8家族23名(ボランティア2家族5名含む)が参加しました。宿舎は大蔵運動場の宿泊施設です。初めての試みで、高校生のいる2家族を福島からのボランティアとして受け入れました。学習会では世田谷区民も参加して、福島からの参加者と交流しました。



歓迎会&クリスマス会



羽根木プレーパークで外遊び

- 12/23(土) 各自高速バスや自家用車で宿舎へ。大蔵公園など近所を散策後、歓迎会&クリスマス会をしました。子どもたちは大学生ボランティアとお喋りやゲームなどを楽しみました。
- 12/24(日) 自由行動日。
- 12/25(月) 羽根木プレーパークで子どもたちは走り回り、焚火でパンづくり。親たちはしめ縄づくりのワークショップを楽しみました。夜はアロママッサージを受けてリラックス。
- 12/26(火) オプショナルツアーでは世田谷線沿線を歩いたり、近隣の砦あそびの杜プレーパークで遊んだりしました。午後の青木美希さん学習会では福島と世田谷の人たちが一緒に話を聴きました。夜のお別れお茶会では青木さんも交え福島の実状を語り合いました。
- 12/27(水) 最後も砦SL公園で外遊びをしてから各自帰路につきました。

娘2人は運営委員のIさんに教えてもらったマジックを帰宅後も親戚たちに披露してドヤ顔しておりました。プレーパークや公園と外で思いきり遊べたのも、お兄さんお姉さんに遊んでいただいたのも本当に楽しかったようで、世田谷また行きたい!次はいつ行けるの?とずっと言っています。

保養に参加する事で、福島で子供を産み育ててしまった事を後悔する気持ちが少し楽になりました。ボランティアさんたちが本当に一生懸命子供たちと遊んでくれ、子供たちの幸せな笑顔を見ることができて、本当に幸せな日々でした。アレルギーの対応にもご配慮頂き、安心して滞在することができました。

普段は自分でも意識していませんでしたが、振り返れば避難先での生活が順調にきたわけではなく何度か空虚感を抱いたり、落ち込む事が多くありました。世田谷保養に参加させて頂くようになり、その時間が減り、明るい気持ちで過ごせるようになりました。今回参加をして、やはり話しにくい事を話せるからだと思いました。

参加者 からの声

この5日間は福島でのあれこれ考えずに済んで本当にリフレッシュができました。日ごろ追われているあれこれから離れたことで、今後はどうして行きたいのか目標が明確になりました。

【福島の子どもたちとともに・世田谷の会】構成団体

世田谷こどもいのちのネットワーク/世田谷市民運動 いち/NPO 僕んち/人の泉・オープンスペース“Be!”/一枚の葉を森へ
世田谷こども守る会/認定NPO法人 プレーパークせたがや/優れたドキュメンタリー映画を観る会/「月桃の花」歌舞団・世田谷
世田谷区教職員組合/自主保育 野毛風の子/神戸をわすれない・せたがや/SAN/NPO法人 野沢3丁目遊び場づくりの会
自主ようちえん ひろば/NPO法人 世田谷マンション管理組合ネットワーク

【協力団体】生活クラブ運動グループ世田谷地域協議会